

研ぎ澄まされた 気迫に満ちた技が ぶつかり合う

平成20年度長島町消防操法大会



通水したまま筒先員を交代

平成20年度長島町消防操法大会が7月6日、蔵之元漁港でありました。

火災現場を想定して、消防ポンプの操作技術を競い合うこの大会には、町内の11分団からポンプ車の部に11チーム、小型ポンプの部に19チームが出場しました。

各分団の代表として大会に挑んだ選手たちは、スタートラインとなる待機線に並び、高鳴る鼓動を抑えながら火点を注視すると、やがて覚悟を決めた様子。指揮者の「集まれ」の号令とともに、無心で跳び出していく選手たちの機敏な動作に、会場からは盛んな拍手が送られました。

勝負を終え、笑う人、天を仰ぐ人、涙をこらえる人ともさまざまでしたが、その表情から、団員たちの真剣さが伝わってきました。

5月ごろから訓練を始めた団員たち。その集大成として臨んだこの大会を終えるころには、消防人として一回りも二回りも大きくなり、頼れる存在となっていたようです。

